

高度化PICSの整備推進

現状把握・課題

【現状】

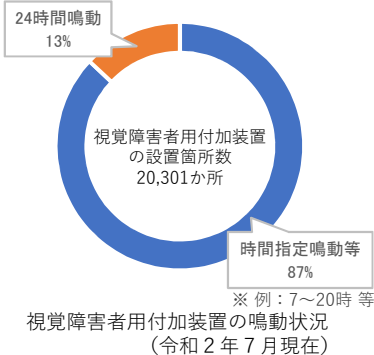
- 警察では、視覚障害者等が道路を安全に横断できるよう、視覚障害者用付加装置の整備等の対策を実施。
- 他方、視覚障害者用付加装置が鳴動しない時間帯の交差点において、視覚障害者の交通事故が依然として発生。
⇒ 視覚障害者団体から、同装置の24時間鳴動を要望する声もあるが、付近住民との調整が困難であることも。

信号機のある横断歩道を横断中の歩行中視覚障害者の死傷者数の推移

各年	平成30年	令和元年	令和2年
死傷者数	7	7	1

<事例>

平成30年12月、通勤ラッシュを避けるため早朝出勤していた視覚障害者が、早朝で視覚障害者用付加装置が鳴らなかったために赤信号で横断歩道を渡ってしまったことによる死亡事故が発生



- コロナ禍での「新しい生活様式」が求められる中、こうした状況が視覚障害者等の時差出勤等に支障を及ぼす懸念。
- さらに、旧型のPICS（専用端末や白杖を用いて音声や振動で信号情報等を知らせるシステム）は、一部製造中止、老朽化等の理由により撤去されるなど、減少傾向。

年度末時点	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
旧型PICSの設置箇所数	572	536	534	506	436	396

旧型PICSの設置箇所数の推移

【課題設定】

- 第1期SIP※の研究開発成果である新たな歩行者支援システム「高度化PICS（携帯電話等を活用して信号情報提供等を行うシステム）」の整備を推進し、交差点における視覚障害者等の安全な横断を確保する。

※ 内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム」

インプット

(予算)
令和3年度 186,470千円

アクティビティ

- 都道府県警察において、高度化PICSの整備が必要な信号交差点を特定し、当該交差点に高度化PICSの整備を実施。
- 都道府県警察において、関係機関・団体等と連携し、高度化PICSの広報や利用方法に関する説明会等を実施。
- 警察庁において、高度化PICSに対応したアプリや端末を開発・製造する企業を増やすための働き掛けを実施。

アウトプット

○ 高度化PICSの新規整備数
令和3年度：7都府県警 145か所
(参考)
令和2年度：4県警 62か所
令和元年度：3県警 61か所

短期アウトカム

- 高度化PICS設置箇所数の拡大
- 視覚障害者用付加装置が夜間鳴動しない交差点における整備率の上昇
⇒ コロナ禍における視覚障害者の時差出勤（視覚障害者用付加装置が鳴動しない早朝、夜間時の出勤）等の安全の確保、移動の円滑化

上記により、高度化PICSの効果が実証され、都道府県警察による整備や企業による対応アプリ・端末の開発等が促進される。

中長期アウトカム

- 信号交差点における視覚障害者等の歩行中の交通事故件数の減少
- 高度化PICS対応アプリ等の機能拡充による利用者の利便性の向上（3年以内に高度化PICS対応アプリ・端末が3つ以上になることを目指す）

インパクト

- ・ 道路における危険の防止
- ・ 安全で円滑な道路交通環境の実現
- ・ バリアフリー社会の推進